





表-1 漁業，施設整備と要望の経緯

漁業	要望	機能(活動)	施設
<ul style="list-style-type: none"> <li>沖合底引網</li> <li>沿岸漁業(刺網(スケソ・カレイ), コンブ採藻, ウニ採取)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>沖合底引網漁船集積基地</li> <li>外来船の中核基地(準備休憩)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>水揚機能</li> <li>避難・準備・休憩機能</li> <li>加工・冷蔵機能</li> <li>流通販売機能</li> <li>増殖機能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>8次(S63～H5)まで</li> <li>漁場造成事業</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>沿岸漁業</li> <li>つくり育てる漁業</li> <li>増殖場造成(漁場整備)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>つくり育てる漁業への転換</li> <li>クロソイ養殖, ウニ・ホッキガイの放流事業</li> <li>資源増大</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>水揚機能</li> <li>避難・準備・休憩機能</li> <li>加工・冷蔵機能</li> <li>流通販売機能</li> <li>増殖機能</li> <li>養殖機能</li> <li>蓄養機能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>9次(H6～H13)</li> <li>道立栽培水産試験場</li> <li>広域型増殖場造成事業</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>沿岸漁業</li> <li>つくり育てる漁業</li> <li>増殖場造成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中間育成, 増養殖のための大規模海域の創出</li> <li>親水空間の創出(ふれあい漁港)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>水揚機能</li> <li>避難・準備・休憩機能</li> <li>加工・冷蔵機能</li> <li>流通販売機能</li> <li>増殖機能</li> <li>養殖機能</li> <li>蓄養機能</li> <li>集客機能</li> <li>試験研究機能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特定漁港漁場整備計画(H14～H23)</li> <li>道立栽培水産試験場</li> <li>地先型増殖場造成事業</li> </ul>

ては、水揚額の増加によって付加価値額も大きくなっている。新たに追加になったクロソイの養殖と浮体式棧橋の蓄養機能は、水揚量、水揚額の面で付加価値向上に貢献している。

特定事業では集客、試験研究が加わり9つの機能になる。集客機能はMランドでの直売や漁協加工場での販売機能である。試験研究機能は北海道立栽培水産試験場ができることで、種苗生産や増養殖の面で付加価値向上に貢献したり、施設を見学用に開放し集客機能として付加価値化を図るものである。

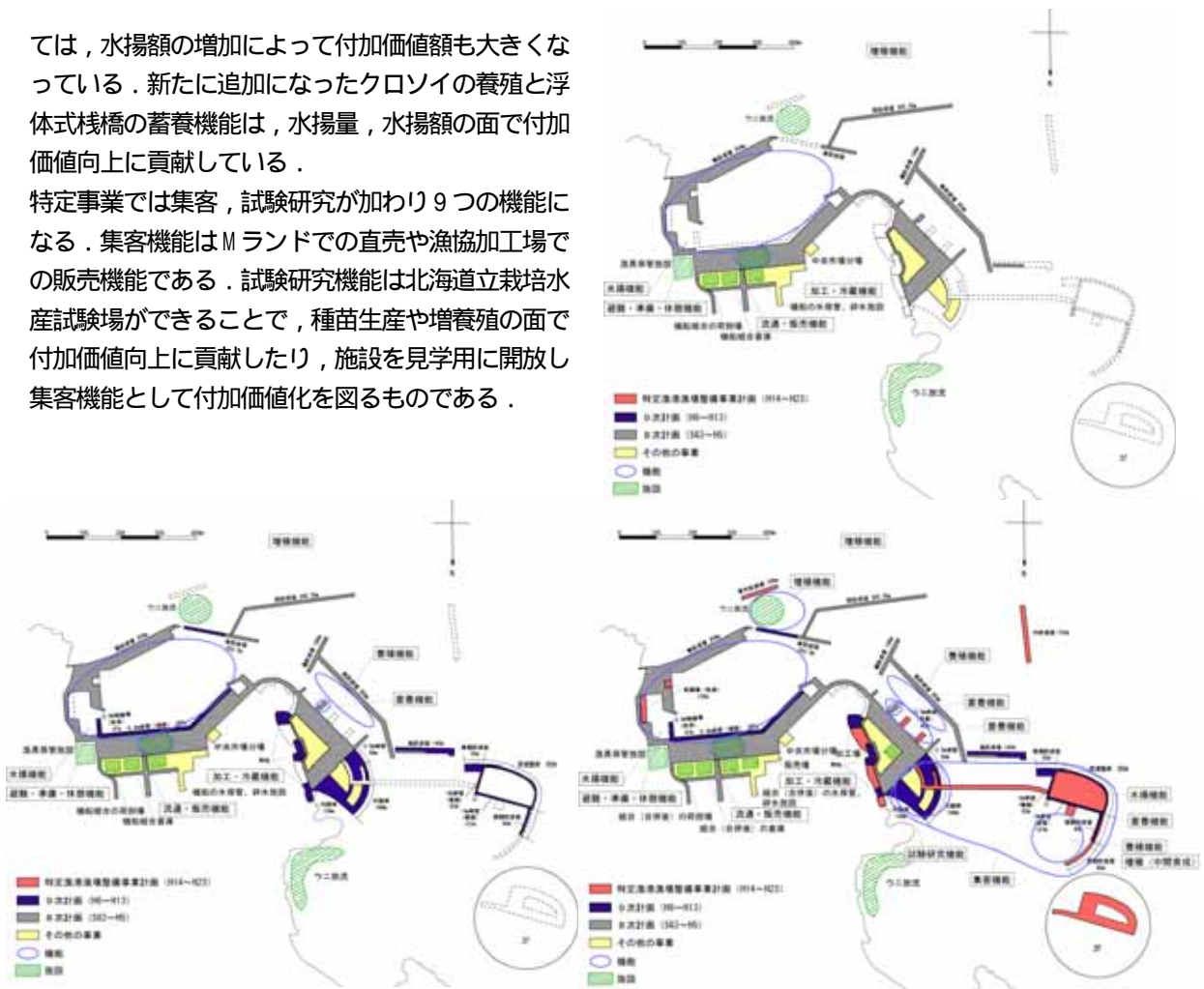


図-3 漁港整備の経緯 (右上：8次，左下：9次，右下：特定)

3.2 一体的・総合的整備前後における要素機能（諸活動）の相互関連効果の具体化

事業計画年次に合わせて陸揚量，金額，養殖実績，水産加工業販売金額等を整理し，それぞれの年次における機能とその機能がもたらす粗付加価値額をマトリックスで表した。事業の進捗により機能が拡大していく様子は表-2の様に示される。

表-2 要素機能(諸活動)の拡大

産出	1. 水揚	2. 避難・準備・休憩 (外来船)	3. 加工・冷凍・冷蔵	4. 流通販売	5. 増殖	6. 養殖	7. 蓄養	8. 集客	9. 試験研究	合計
1.水揚										
2.避難・準備・休憩 (外来船)										
3.加工・冷凍・冷蔵										
4.流通販売										
5.増殖										
6.養殖										
7.蓄養										
8.集客										
9.試験研究										

8次計画  9次計画  特定

表-3は，具体的な数値をマトリックス内に導入したものである。

表-3 要素機能別粗付加価値額

(第8次)

(第9次)

漁港漁場内で有する機能(億円)

付加価値化の方向	1. 水揚	2. 避難・準備・休憩 (外来船)	3. 加工・冷凍・冷蔵	4. 流通販売	5. 増殖	6. 養殖	7. 蓄養	8. 集客	9. 試験研究
1.水揚	20	0	42	7	0	0	0	0	0
2.避難・準備・休憩 (外来船)	0	10	29	0	0	0	0	0	0
3.加工・冷凍・冷蔵	0	0	78	285	0	0	0	0	0
4.流通販売	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5.増殖	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6.養殖	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7.蓄養	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8.集客	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9.試験研究	0	0	0	0	0	0	0	0	0

漁港漁場内で有する機能(億円)

付加価値化の方向	1. 水揚	2. 避難・準備・休憩 (外来船)	3. 加工・冷凍・冷蔵	4. 流通販売	5. 増殖	6. 養殖	7. 蓄養	8. 集客	9. 試験研究
1.水揚	23	0	48	8	0	0	0	0	0
2.避難・準備・休憩 (外来船)	0	12	35	0	0	0	0	0	0
3.加工・冷凍・冷蔵	0	0	73	332	0	0	0	0	0
4.流通販売	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5.増殖	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6.養殖	0	0	0	0.2	0	0.1	0	0	0
7.蓄養	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8.集客	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9.試験研究	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(特定)

漁港漁場内で有する機能(億円)

付加価値化の方向	1. 水揚	2. 避難・準備・休憩 (外来船)	3. 加工・冷凍・冷蔵	4. 流通販売	5. 増殖	6. 養殖	7. 蓄養	8. 集客	9. 試験研究
1.水揚	23	0	57	5	0	0	0	0.02	0
2.避難・準備・休憩 (外来船)	0	12	35	0	0	0	0	0.008	0
3.加工・冷凍・冷蔵	0	0	92	366	0	0	0	0.005	0
4.流通販売	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5.増殖	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6.養殖	0	0	0	1.2	0	0.6	0	0.005	0
7.蓄養	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8.集客	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9.試験研究	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0

### 3.3 要素機能の間接的な効果を入れた総合的な効果の算定

前項で作成したマトリックスの機能別の行及び列をそれぞれ加算し、要素機能の間接的な効果を入れた総合的な効果を算定した（表 - 4 参照）。

表-4 総合的な効果

(第8次)										(第9次)											
単位：億円										単位：億円											
付加価値化の方向⇒	1.水揚	2.避難・準備・休憩 (外來船)	3.加工冷凍冷蔵	4.流通販売	5.増殖	6.養殖	7.蓄養	8.集客	9.試験研究	行 合 計	付加価値化の方向⇒	1.水揚	2.避難・準備・休憩 (外來船)	3.加工冷凍冷蔵	4.流通販売	5.増殖	6.養殖	7.蓄養	8.集客	9.試験研究	行 合 計
1.水揚	20	0	42	7	0	0	0	0	0	69	1.水揚	23	0	48	8	0	0	0	0	0	79
2.避難・準備・休憩 (外來船)	0	10	29	0	0	0	0	0	0	39	2.避難・準備・休憩 (外來船)	0	12	35	0	0	0	0	0	0	47
3.加工冷凍冷蔵	0	0	71	285	0	0	0	0	0	356	3.加工冷凍冷蔵	0	0	73	332	0	0	0	0	0	405
4.流通販売	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4.流通販売	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5.増殖	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5.増殖	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6.養殖	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6.養殖	0	0	0	0.2	0	0.1	0	0	0	0.3
7.蓄養	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7.蓄養	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8.集客	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8.集客	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9.試験研究	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9.試験研究	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
列合計	20	10	142	292	0	0	0	0	0	464	列合計	23	12	156	340.2	0	0.1	0	0	0	531.3

(特定)

単位：億円										
付加価値化の方向⇒	1.水揚	2.避難・準備・休憩 (外來船)	3.加工冷凍冷蔵	4.流通販売	5.増殖	6.養殖	7.蓄養	8.集客	9.試験研究	行 合 計
1.水揚	23	0	57	5	0	0	0	0.02	0	85.02
2.避難・準備・休憩 (外來船)	0	12	35	0	0	0	0	0.008	0	47.008
3.加工冷凍冷蔵	0	0	92	366	0	0	0	0.005	0	458.005
4.流通販売	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5.増殖	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6.養殖	0	0	0	1.2	0	0.6	0	0.005	0	1.805
7.蓄養	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8.集客	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9.試験研究	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0	0.1
列合計	23	12	184	372.2	0	0.6	0	0.138	0	591.938

## 4. 成果の活用

本調査では一体的整備の効果を諸活動による粗付加価値額として表した。一体的整備による効果をより大きくするためには、既存産業間の連携、観光産業との連携、直販のような新たな産業の創出など、地域の産業構造を新しい産業構造に変化させるようなビジョンを具体的に描くことが必要である。つまり、生産によって付加価値を付ける、生産の中間投入（経費）を減少させる、移輸出を増やす、地産地消を増やす、という活動が産業構造の変化をもたらし、それによる効果を一体的整備による効果と考えることができる。本調査では「漁村での生活の向上」のように金額換算することが難しい活動は対象にしなかった。しかし、一体的整備は漁港で働き、漁村で生活する人びとの活動を対象とするので、今後検討をすすめる中で、活動の対象としていく必要があるとともに、効果算出における金額換算の仕方について考慮が必要である（表 - 5）。

表-5 漁村生活に関連する機能の本手法への包括の展望

漁港漁場整備に関わる活動の例	生活に関わる活動との関連	金額換算可能性のある効果の例
・蓄養活動	・磯まわり漁業の出漁日数が減少	・陸作業に使う時間が増え、パート代が節約できる ・他の漁業に出漁し、水揚げが増える
	・安定出荷できるので収入が安定する	・設備投資ができる ・安定した消費ができる
・加工等の活動	・新たな加工場の建設で、地元の雇用が増加	・新たな雇用により家族の収入が増える ・消費が増える ・税収が増える